

## 抵抗の群像



# 「滝川事件」に反対する学生 の中心となつて活動した

ながおまごお  
**長尾孫夫**

長尾孫夫は1912年5月16日、

徳島県東祖谷山村栗枝渡（現三好市）の貧しい炭焼き農家に生まれました。小さい時から「優秀児」として注目を浴び、村の奨学金を受け旧制徳島中学に進みました。徳島中学での成績も優秀で、30年

（昭和5年）旧制高知高校文科に合格。南湊寮に入り、同年秋の記念祭（寮祭）の歌として「時の流れに」を作詞して応募、当選。全国寮歌祭での人気投票第1位となりました。今でも高知市民に愛唱されています。

一、時の流れに舟浮かべ  
情けの調べかなでつつ  
果のなき旅に出しより  
ここに二十齡経ぬ

（中略）

四、仲に自由の白き帆や  
岸辺に紅き自活の花  
ああ若き日の憧憬を

蒼空高くあげんかな

長尾は弁論部に入り、寮では図書委員。軍事教練に反対しインターナショナルを歌ったとして学校当局から停学処分。特高警察からマークされ、社会科学の研究を学外に広めたという理由で治安維持法違反で二度検挙されました。

長尾が京都大学法学部に入學した3年に起こったのが「滝川事件」でした。内務省は滝川幸辰教授の『刑法読本』などを危険思想として発禁処分、鳩山一郎文相は京大総長に同教授の辞職を要求。法学部の教授、教官は学問の自由侵害として反発、全員が辞表を提出した事件です。

学生たちも、教授会を支持し反対運動に立ち上がりました。その中心的学生の一人が長尾孫夫でした。出身の各高校から代表2人を選出した高代会議を立ち上げ、東

京、東北、九州の各帝国大学にも支援要請を依頼しました。

法学部1600人の学生は全員退学届けを提出し、さらにこの運動は学部を越えて全学運動、全国的運動へと盛り上がりました。しかし文部省は、分断と切り崩しをはかりました。

長尾はその年8月、川端署に検挙され、下鴨署、七条署へとたらいまわしされ拷問を受けましたが10月に釈放されました。

次の年9月に検挙され、不起訴で12月に釈放されました。37年、停学などで一年遅れて卒業。社会思想研究の雑誌編集にあたるも、この時にはすでに病魔に侵されていました。徴兵検査でも異常を指摘されました。卒業した年の秋、前から知り合っていた女性と結婚。体のこともあり、何度ためらったうえでのことでした。新婚生活もつかの間、床に臥します。その後3度目の検挙、留置場で瀕死の状態となり強制釈放となりました。京大病院で検査を受けると結核は両肺はもとより腸にまで及んでいて、回復すれば奇跡といわれま

した。一説では留置場で当局に感染させられたともいわれます。

長尾は夫人とともに郷里の東祖谷に帰ります。夫人の闘病記には「衰弱した身体で京都から東祖谷山村まで それは苦痛と不安との長い旅でありました」と書かれています。しかしもう元の体には戻らず、家族の手厚い看護にもかかわらず1年後の1939年5月16日、息をひきとりました。享年27歳でした。

長尾孫夫の生涯は、元NHKディレクター、藍友紀さん（本名・谷津精衛さん）の長編小説「祖谷溪挽歌」で世間に知られるところとなりました。第10回日本自費出版文化賞大賞（2007年）を受賞。著者の藍さんは「滝川事件のことを知れば知るほどこの事件のことをもつと多くの人に知らさなければならぬと思うようになりました。とくに若くして無念の死を遂げた学生である長尾氏の無念を綴って、後世に彼の名前を残さなければと決意したのが、書き始めたきっかけです」と語っています。

（徳島県本部事務局長・山本茂喜）